

### 淡墨桜

(2011年4月撮影)



### 莊川桜

(2012年4月撮影)



### 四季桜

(2013年11月撮影)



最初に植えた桜の木の前で、活動の意義を話す「桜ライン311」の代表岡本翔馬さん＝岩手県陸前高田市で



3年目の春、今年も花をつける桜の木が増える。東日本大震災で1割近い住民が犠牲となった岩手県陸前高田市で、NPO法人「桜ライン311」が津波の到達線上に植樹を続けている。教訓を後世に伝え、観光地として人を招き、地元の雇用も増やす「一石三鳥」の試みを実現しようと、息の長い活動を目指している。(栗田晃)

# 桜は傷痕忘れない

遠くに海岸が見える更地に、多くの土壌で育ちやすいオオシマザクラやベニシダレザクラが一行に並び、岐阜県の淡墨桜や莊川桜、愛知県豊田市の四季桜など、各地から贈られた名木の苗木も。

桜ライン代表の岡本翔馬さん(三)は「悲しいだけの場所は残らない。寄付や植樹で協力してくれた皆さんの好意とともに、愛さず、人が集まる場所になってほしい」と話す。

市内の約百七十キロにわたる、ほぼ十キロ間隔で一万七千本を植樹する計画は二〇一一年十一月から開始。地権者の了解を得ながら進めており、家族を亡くした人から「震災を思い出したくない」と断られることも。冬季の植樹は全国のボランティアに助けられ、地元の二十〜四十代のスタッフ十人が成長を見守る。シカに食べられ、植え直しが必要なものも多い。

#### ☆悔しさが原点

活動の原点は「悔しさ」だという岡本さん。中学時代の同級生五人が亡くなり「過去の津波の教訓がもっと意識されていれば、生き残った人も多かった」。一

本一本に追悼の思いを込めて植えている。

#### ☆植樹まだ4%

植樹が終わったのは七百本で、まだ計画の4%。十年近くかかるペースだが、「復興計画が固まり土地の利用法が決まれば、植樹もやすくなる。十五〜二十年の間に完成させたい」。そのためには人手、資金ともに継続して集めなくてはならない。

復興が進むにつれ津波の傷痕は消えていく。桜ラインが完成すればその痕跡を伝えるとともに、一行に咲く桜が観光地になり、雇用の受け皿になる狙いもある。地元で働き口が少なく、岡本さんも震災前は東京で働いていた。「若者が少ないのは以前からこの街が抱えていた課題。震災をきっかけに一緒に解決したい」と意気込む。

熱意だけで始まった活動。「多くの人に支えられたおかげ。参加してくれた人も地元で防災意識を高めてくれればうれしい」。日本中に教訓の種がまかれることを期待する。

問い合わせは桜ライン311事務局＝電0192(47)3399＝入。

## 陸前高田・一本道構想 名木が応援 集客期待

福井の時計店窃盗 豊田の容疑者逮捕

昨年二月に福井市の時計店から二千五百五十万円程度の貴金属などが盗まれた事件で、福井県警は二十日、住居侵入と窃盗容疑で、愛知県豊田市篠原町で、建築板金業蔵地広光容疑者(三七)を逮捕した。この事

### 遺族「年1回

神戸児童殺傷 加

神戸市で一九九七年に生じた連続児童殺傷で亡くなった小学四年山下彩花(あやか)ちゃん(一〇)の遺



続児童

2014年3月23日 中日新聞

須磨区

2〜5日 小学生 下彩花 ちゃん(一〇)の遺 年(一〇)の遺 2人が死 疑で「酒 ばらせい 中学3年 を逮捕 犯罪被害 響を与 4年3月、関東医療少年 を仮退院し、05年1月に 退院となり社会復帰した